

宮崎ロータリークラブ週報



2023-2024 Theme

no. 36

発行 | 2024年4月2日

担当 | 堂地 隆一

■ 前回の例会記録

第3422回 2024年 3月26日(火)

【ゲスト卓話】

宮崎県ポッチャ協会副会長
柳田 哲志 様
(テレビ宮崎アナウンサー)

「ポッチャ～パラスポーツの持つ力～」

出席状況報告

会員数(名誉会員2名を除く)	104名
例会出席会員数	68名
同上出席率	66.67%

■ 今回の例会予定

第3423回 2024年 4月2日(火)

【「持ち味」を知る・学ぶ委員会】

大園 匡 委員長

* 誕生日祝・結婚記念日祝(親睦委員会)

■ 次回の例会予定

第3424回 2024年 4月9日(火)

【職場訪問例会】

宮崎日機装株式会社

- 配布物
 - ・週報no 35
- 報告
 - ・理事会報告 名誉会員について
 - ・東京OB会、植樹奉仕事業
- 池ノ上ガバナーの動き
 - ・3月29日 地区大会 台湾 佐藤地区幹事随行

- ・宮崎ローターアクトクラブ谷次代表
- ・退会挨拶 全日本空輪(株)宮崎支店長 中村雄志 会員
- ・(株)明光社 代表取締役社長 新井 孝明 会員
- ・出席委員会
- ・親睦委員会
- ・ロータリー財団委員会

■ ビジター会員



京都南RC
上米良 大輔 会員



国際RC第2730地区
ローターアクトクラブ代表
谷次 一研 様

■ 退会挨拶



全日本空輪(株) 宮崎支店長
中村 雄志 会員



(株)明光社 代表取締役社長
新井 孝明 会員



Happy Box
蘭田 有美 会員

浪人していた次男が大学に合格しました。必ず受かると言われていたのに前期でまさかの不合格、お守りのつもりで申し込んだ同じ大学の後期試験で奇跡の合格。合格発表の前日は東京OB会でした。久しぶりにお会い出来る皆様に癒されながら一生忘れないようなドキドキな翌日、ホテルで発表を聞きました。願掛けしていたお酒も解禁です。

入学式は来週の火曜日です。幹事報告は副幹事をお願いしております。私事でご迷惑をお掛けして申し訳ありませんがどうぞ宜しくお願いいたします。



■ 会長の時間



私の仕事
セブン-イレブン・ジャパンとの出会い

岡本 俊則 会長

皆様こんにちは、ギターの話も飽きてきたと思いますので今日は目先を変えて私の仕事の話に少し触れさせていただこうと思います。

私は西南開発株式会社と西南不動産株式会社という二つの会社の代表取締役を務めています。西南開発は主に事業用不動産の媒介(仲介)等のフロービジネス、西南不動産は土地建物または土地を所有し賃収を得るといったストックビジネスを展開しています。

36歳の時に西南開発の代表となりました。当時は不動産業全般(個人:法人、売買:賃貸)何でも取り扱う総合不動産業として生計をたてていましたが40歳の時に一回目の転機が訪れます。

ある夜、突然に、セブン-イレブンの開発マンを名乗る男性が事務所に現れました。インタビューをさせて欲しいとのことだったので応じました。ところがその男性はそれから毎晩の様に事務所に現れます。数日後ストレートに目的を訪ねました。それは私に自身の店舗開発のパートナーになって欲しいとの訴えでした。何度も何度も断りましたがその男は、諦めません。(企業規模などを考えるととても対応できるわけがないと考えていました。)

最後には「食わず嫌いは良くない、三か月だけでも試しにやってみて、それでもどうしても合わないと言われれば、辞めれば良いと論じます。その時は私も諦めます。」と言い放ちとうとう押し切られました。やむなくお試し期間のような形で業務を開始。やり始めると、とても辞められない状況に陥り、「あっ」と言う間にセブン-イレブン教に洗脳され、信者化されてしまいました。気が付くとまるでシステムの一部のとして取り込まれ、それなりの責任も持たされ、チーム皆でベクトルを同じくし、会社が掲げた目標に向かい一心不乱に数字を追いかける様になっていました。ここから数年間は企業戦士として身体を酷使し飛び回る日々を送りました。

ただ、仕事自体はとても“やりがい”のあるもので、自身が開発し、苦勞してオープンに漕ぎつけたお店を見ると今でも胸に熱いものがこみ上げます。セブン-イレブンの店舗開発はリクルート部と言う名称で店のハードの開発から経営者(オーナー)のいざないまでを一手に担います。一店・一店のお店にそれぞれの深い思い入れがあります。あるオーナーは病気の両親を抱え迷いに迷いながら開業の決断を下しました。また、あるオーナーは、お店にすべてを掛け、これまでのキャリアを捨てて、人生のすべてをかけた脱サラに挑みます。それは初老の夫婦にとってあまりにも大きな決断だと思いました。他にも皆それぞれに様々な物語を紡ぎながらようやくオープンに漕ぎつけます。

オープン日前日には、ターンキー式というオープンセレモニーが店舗にて執り行われます。翌日開店を迎えるオーナーご夫妻、そしてこれまで共に開店準備を進めてきた店舗スタッフ、全員が一人ずつその思いを語ります。この場では皆の思いが一気に爆発し、ほとんどのオーナーが涙を流す場面となります。人様の大きな節目・決断を目の当たりにしながら、自身の仕事を心底誇れる達成感に包まれる幸せな時間です。私はいつもこの時に皆に等しく“神が微笑んでほしい”と願います。

フランチャイズ店舗の開発における大切な理念はすべてのオーナーに公平なお店づくりです。しかし、残念ながら不動産は一つとして同じものはありません。所在するエリア、規模、形状、接道等、もちろん社内の一定の基準をクリアはしていますが、店のハードに優劣は当然に存在します。だからこそ我々開発業者に課せられた使命は重く、しっかりと物件の状況を把握し、できる限りの交渉・努力を重ね理想形の店舗に少しでも近い店舗に仕立てていくことを求められています。

こんな感じでいつの間にか“どっぷり”とセブン-イレブン教に洗脳をされていますので、自身の仕事への姿勢は?一切の妥協を排し限界を極めることだといつも肝に銘じながら業に励んでいます。振り返るとこれまでに180件を超える店舗の開店に携わりました。

また、ここでの仕事は、わが社が不動産業者として最新のスキルを身に付ける為に大きく役立ちました。この仕事に携わったことにより社の企業価値が向上し、二社の方向性も明確なものとなりました。西南開発は法人の営業に特化したものへと変化し、西南不動産は所有財産を少しずつ増やしながらストックビジネスを展開していくという方向を確立できました。

企業としてのものの考え方や将来像に対するアプローチの仕方など様々なことを学ぶことが出来たことは私にとっての最大のメリットとなったと思っています。

今回はこの仕事の中で迎えた二回目の転機と、様々なエピソードを皆様にお話をさせて頂こうと思いますのでお楽しみにしてください。ご清聴ありがとうございました。

■ ゲスト卓話



「ポッチャ
～パラスポーツの持つ力～」

宮崎県ポッチャ協会副会長
柳田 哲志 様
(テレビ宮崎アナウンサー)

みなさんこんにちは
私はただいま紹介にあずかりましたUMKテレビ宮崎アナウンサーの柳田哲志と申します。

本日は宮崎RCの卓話ご指名頂きまして誠にありがとうございます。私はポッチャという競技に取り組んでおりまして、今日のポッチャとパラリンピックスポーツの魅力を少しでもお伝えできればと思っています。

(卓上に広げた競技用のボールを指して)これがポッチャで使う道具です。

赤と青と白のボール(赤青各6球+白1球)です。対戦は1対1、コイントスでどちらかの色に決めて、白いボールが的になり、これに近づけようという競技です。シンプルルールですね。

皆さんも東京パラリンピックでご覧になったと思います。流行語大賞の中にも『びったびた』『スグムライジング』などが選ばれましたので記憶の方もいらっしゃると思います。

思い起こしますと、私とポッチャは3年4ヶ月におよぶ治療とリハビリの間に出会いました。年齢40にして首の骨を折らして、首から下が麻痺・四肢体幹麻痺となりました。久しぶりにお会いする方に「柳田くん元気になったねえ。だいぶ手も動くじゃない」と言われる事がありますが、実はケガをした40歳の時、今から16年前の6月14日からほぼ変わっておりません。車いすに座っているように見えますが、体幹ベルトで車いすに括り付けています。ほぼ寝たきり状態で寝返りも打てません。体幹が麻痺するという事は、腹筋背筋を含む首から下の筋肉を全て自分では動かせません。首から下が完全に麻痺しています。ですから今、動いているように見えますが、私が出ることは首から上と(可動域は狭いのですが)肩、そして肘を曲げる事だけです。伸ばすことは出来ないのです。伸ばす時には重力に任せるという事になります。両手に車椅子を漕ぐ為のゴムが内側に貼ってある頸損者用(頸損損傷者用)のグローブを付けています。脊椎損傷の方は腰から下の麻痺ですから手、上肢が使えます。ただ四肢麻痺の場合は、指1本動かさず目の前のモノ全て、マイク一本握る事も出来ないのです。食べたい物があっても自分では上手く食べる事が出来ません。

この16年間、常に多くの艱難辛苦がありました。ほぼ全て妻



の介助により共に生きて参りました。

もちろん、そのケガを負った時の衝撃は凄まじいものがありました。いきなり番組の生中継中に首の骨を折ったわけですから。先ず、事故直後全く身体が動かないことに戸惑いました。ピクリともしません。「あれ？」何か糸の切れた凧のようなフワっとした感じでした。救急車で高千穂町内の病院に運ばれ検査を受けたところ、体は何所も痛く無かったのですが、担当医には「大変な事になっています。首の骨がぐちゃぐちゃです。」と言われました。田んぼの中に頭から突っ込んだのですが、その瞬間は、ドンという衝撃があったくらいでした。理解が追い付かないうちに県の防災ヘリで熊本県の国立病院機構熊本医療センターへ運んで貰いました。そこで検査をしたところ「やはり首の骨が折れています。手術をすぐしないといけません」と言われました。夜11時くらいに手術室に入り、出てきた時には体にたくさんの管がついて、深刻な肺炎にかかっています。両肺真っ白で、(首から下が麻痺の為)自分で咳払いすらできず、結局気管切開し、(常に痰の)常時の吸引を余儀なくされ、この受傷1ヶ月間は大変でした。

ある日ドクターに「身体は善くなりますよね？」と聞いたところ、「柳田さんの場合は首の骨を折っていて、頸髄という首の神経を圧迫していました。その事によって首から下に脳からの信号が伝わっていません。ですから動かないのです。いわゆる四肢体幹麻痺です。少なくとも人と握手することは生涯ないでしょうし、歩いて退院することもありません。」と言われました。普通は絶望するのですが、私はそれでも尚、「先生それは100%ですか？リハビリを頑張れば1%くらいは何とかなるのではないですか？」と聞いたところ、「決して希望は捨てないでください」と言われました。無理ですとは言わず「諦めないで下さい。希望の光は消さないで下さい。」と仰いました。親身になってくれる素晴らしい先生でした。その言葉のおかげで私は、「今は全然身体が動かないけど、絶対に動かしてやる」体力には自信があったので「リハビリがどんなにキツくてもやってやる」という気持ちでリハビリに取り組みました。私は所謂、中途障がいの者です。ですから、今まで出来ていたことが突然できなくなったり、例えば怪我や疾患で突然目が見えなくなったり、音が聞こえなくなったり、あるいは話せなくなったり。私の場合は、私が動かしていた首から下、身体の99%が動かせなくなりました。ただ思考は自由な世界が広がりました。「今まで、なんで五体満足なのに小さなことで悩んだり、身体を動かさなかったんだろう？」

なんで色んなことに挑戦してこなかったんだろう？今なら、迷ったらなんでも答えはYESなのに。」と。車いすに乗ったからこそ、大ケガを負ったからこそその自由さを得る事ができました。そして、これからはオマケの人生を思い切って生きてやろうという考えに変わりました。

熊本の病院に1ヶ月いて、そこから福岡県飯塚市の総合せき損センターという脊髄を損傷した方に特化した病院に転院する事になりました。お陰様で1年1ヶ月、とにかくスパルタのリハビリを受ける事ができました。私も願ったり叶ったり。これまでの人生は毎日マイクやカメラに向かっての仕事や日常生活でしたが、これからは自分の身体に向かって、これは仕事だと思っリハビリに没頭しました。

自分には生放送中に事故を起こした責任がある。とにかく早く宮崎に帰って、視聴者の皆さんに、宮崎市民の皆さんに「ただいま!元気になりました。また喋れるようになりました。これからもよろしくお祈りします。」この一言を伝えなくてはいけない、という責任感に日々負われていました。それまで春高バレーボールの実況を長年担当していることもあり、宮崎県内の全高校のバレーボール部の皆さんからも寄せ書きや千羽鶴を頂きました。私の病室は個室でしたので、壁一面に全て貼り、毎日それを見ながら読みながら自分を鼓舞し、リハビリに邁進しました。

1年1ヶ月が過ぎますと、病院側から「もうそろそろ次のステップを・・・」と言われる時が参りました。「柳田さんは車いすも漕げるようになりましたし、会社に帰られた方が良いんじゃないですか?」。しかし私の中ではまだ肺活量も健常な時の1/3程ですし、息を吐く腹筋も使えず(腹式呼吸が来ない)状態でしたので、「声を張ることが出来なければ、帰って職場にいても仕事にならない。」そう考えて「何処か他にリハビリが出来る場所は有りませんか?」と相談したところ、大分県別府市に国立別府重度障害者センターというところがあり、そこに行く事で色々な動作を獲得される方がいらっ

しゃる事を教えて頂きました。ただし、そこは個室が無くTVが1台しかない4人部屋になりますが、病院ではありませんので、割と自由はききます、との事でした。会社にも相談したところ「少しでも良くなるのだったら」と許可を頂きましたので、そこから2年2ヶ月、別府重度障害者センターでリハビリを行いました。そこでは色々な動作を獲得する事ができました。自分で集尿袋にたまった尿を捨てる事(排尿)が出来るようになりました。頸損グロブに装着した自助具にスプーンを差して、自分で何とか食べ物を口に運ぶ事もできるようになりました。そんな風に色々な事が出来るようになった中で、(職場復帰に向け)絵本の読み聞かせも一生懸命にやりました。50音の発声も一生懸命練習しました。更に、たまに?夜な夜な?別府の街の Snackbar に出かけては、カラオケを歌って「これもリハビリだ」と、焼酎を飲みながらより実践的なりハビリにも取り組んでおりました(笑)

別府では苦しみながらも楽しみながら、しかし精一杯真剣にリハビリに取り組んでおりました。

その別府の施設リハビリ生活2年2ヶ月の間には、職業能力訓練もあり、トールペイントを習得する事も出来ましたし、パソコンの教室では本を1冊丸暗記するくらい勉強しITパスポートという国家資格も取る事もできました。そんな中で何より嬉しかったのが、このボッチャとの出会いでした。

スポーツの時間には体育館や屋外で、色々な障害者スポーツを体験できました。その時に改めてスポーツの持つ物凄い力を痛感しました。例えば大きいバンスボールを手で弾き、体育館の端から端まで運んで二本のセーフティコーンの間を通すハンドサッカーもやりました。障害に応じて工夫さえすれば、色々なスポーツがすべてリハビリに(ひいては障害者の生きがいに)通じるものなのです。

重度センターでやっていたのはレクリエーションボッチャでした。実は当時、宮崎県にもレクリエーションとしてのボッチャがありました。ただ、競技としてのボッチャが宮崎県にはありませんでしたので、のちに私が始めることになったのです。私が大分県に行けたのが運命だと思っていたのは、皆さんご存じの『太陽の家』の存在を知ったこともそうです。あの有名なパラリンピックの父・中村裕医師が私財を投げうって障害者の為に創った施設で、氏は1964年の東京オリンピックの時にパラリンピックを立ち上げ偉大な功績を残されたのです。太陽の家は、障害者が障害者によって障害者の為に運営しているスーパーであったり、温泉であったり、色々な施設が集中しており、障害者はオムロンやホンダなど色々な企業の工場で働きながら賞金を得て、税金を払い、そして普通に日常生活をしています。また、大分と言いますと大分国際車いすマラソンも開催されます通り、宮崎の隣の県でありながら、障害者や医療、福祉に対しては随分進んでいて、車椅子ユーザーに対しても殆ど偏見がありません。普通には車椅子利用者が街中を闊歩して、なんの違和感もありません。そういう意味では素晴らしい共生社会が出来上がっていると言って良いかもしれません。ですから、障害者スポーツをされている方も本当に沢山います。

本日はボッチャという競技について、日本パラスポーツ協会から『かんたん!ボッチャガイド』を取り寄せてお手元に配布しています。これをご覧頂けば、競技としてのボッチャのすべてが詰まっています。2次元バーコートもついています。これを読み込めば動画も見ることが出来ます。日本を代表するBC2クラスのエースも載っています。今年もオリンピック・パラリンピックイヤーという事でバリ行きました選手もいます。ボッチャ日本代表は「火の玉ジャパン」と言います。そもそもボッチャという言葉は、ラテン語でボールという意味です。中世ヨーロッパ発祥のボッチャが競技化されていき、近年になって、パラリンピックの正式種目になりました。

ボッチャという競技は、脳性麻痺の方でも出来る競技として考案された独自のスポーツです。脳性麻痺の方は自分の四肢を自由に動かすことがなかなか困難で、スポーツには縁が遠い状況でした。その脳性麻痺の方たちの為に考案され、のちに脳性麻痺の方と同等の四肢障害がある、脳原生以外の麻痺の方でも出来る競技になりました。現在はBC1~4まで4つのクラスに分かれ、選手たちは世界大会での活躍を目指しています。私はBC4クラス、脳原生以外の四肢麻痺で、ボールを自分で投げられるというクラスに入って



いました。しかし、卵ホルダーのような(手の甲にボールを乗せるカップのような)自助具を使い、遠心力でボールを転がしていたのですが、その自助具が認められないと3年前に日本ボッチャ協会から告げられ、それから公式戦には出場していません。現在は選手を支える活動をしています。自分だけでは全く何も出来ません。ボールすら拾えません。ここ(テーブル上)に私が使っていたボールがありますが、これがボッチャの公式ボールです。平成の天皇皇后両陛下が太陽の家をご訪問された際には、皇后陛下がお持ちになって「意外と重いんですね」とおっしゃっていました。約270g、リンゴ1個分ほどあります。硬さは自由に変える事ができます。しかし重さとボールの周囲の長さも規定があります。ボールを転がすだけの競技なのですが、なかなか難しい競技です。選手が飛んだり跳ねたりする事は無いですし、走る事もあります。車椅子に座った選手同士が行うスポーツですから、老若男女問わず誰でも簡単にできるインクルーシブスポーツでもあるのです。

白いボールが的球でジャックボールと言います。これを最初に赤いボールを持っている選手が投げます。そして続けて赤いボールを持った選手が投げている球に近づけます。そこに青いボールを持った選手が投げ、青いボールを近づけます。以降、白い球(ジャックボール)から遠い選手が次々投げていきます。6球ずつ投げ終えて一つのエンドを終わります。4エンド繰り返して相手の一番近いボールから内側に何個自分のボールが入っているかが得点になります。

弓道やアーチェリー、カーリングなど的に向かって行うボッチャと同じターゲットスポーツです。その中でもボッチャは特殊です。なぜなら動くからです。白いボールである的を動かして自分の優位にする事ができます。相手のボールを弾いて、自分を優位にする事もできます。あるいは自分のボールを押して的球に近づける事もできます。ですから相手の能力も考慮して色々な戦略を考える知的な競技でもあります。二度と同じようなシチュエーションにはなりませんし、選手によっては、(バドミントンより少し狭い)コートで勝負する人もいれば、投球する力が弱いので近い所にしかボールを寄せられない人もいます。このようにプレーによって一投ごとにボールの位置が変わりますので、自分がこの位置に正確に投げられるか、繰り返し練習する必要があります。

私が宮崎ボッチャクラブを立ち上げたのは11年前、最初は妻と二人でした。競技ボッチャをする人が誰もいなかったからです。とにかく日本ボッチャ協会の示す公式ルールを正確に覚えながら、南九州唯一の公認選手として登録をし、最初は別府開催の全国大会に行きました。そこから毎年、全国大会で色々なところを巡って今に至ります。全国大会に行きますと当然ながら全国から選手が集まってきて競技のみならず障害者同士の情報交換の場になります。毎年お互いに様々な刺激を受けながら切磋琢磨しております。私もまだまだパラリンピックを目指していますが、BC4クラスからB



ボッチャとは?

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。

カーリングのように、相手のボールを弾いたりして、自分が優位に立てるような位置取りをしています。自分が、的も弾いて移動させることができるため、カーリングとは一味違う戦略、魅力がある競技です。



ボッチャは1984年からパラリンピックの正式競技として行われていて、障がいの程度でクラス分けをして順位を競います。選手たちは、皇族の脳性まひなど四肢に障がいがあります。見た目には激しい運動ではありませんが、知的な戦略とそれを実行するための技術力、集中力がこの競技では求められます。

C3クラスへの変更もあり、ボールを持つことが出来ない私はランプという滑り台のような器具を使ってボールを射出するという最も障害の重いクラスになりました。道具にはお金も掛かりますし、ランプオペレーターという、ランプ(勾配具)を操作するアシスタントも必要になります。アシスタントを引き受けて下さる方もいらっしやらないし、お金も掛かるので、今私は競技ボッチャ出場は控えています。しかしながら、全国障がい者スポーツ大会にはまだ出場権があるという事で、そちらに向けて今は一生懸命練習をしているところであります。

宮崎ボッチャクラブは、日曜日と火曜日の夜に(宮崎市障害者体育センターで)週2日練習しております。毎週のように練習に来てくれる脳性麻痺の選手も頑張っています。私は少しでもその選手たちの生きがいの創出、そして障害者の光になれるように、ボッチャ競技を盛り上げていきたいと思っております。

宮崎県ボッチャ協会の理事は十数名おりますが、皆さん仕事がおありですので、なかなかボッチャサポートに専念できる環境ではありません。現在は理事の会費や、NPO法人からボールの寄贈、ランプの寄贈を受けてなんとか活動を維持できております。

因みに国内でボールを買くと、13個のボールセットが一番安くて約6万円、ランプが約10万円ほどします。世界大会を目指す選手たちの使うボールは、1球2万円弱、ランプが70万円ほどします。道具も必要ですし、もちろん練習も必要。サポーター、スポンサーも必要です。もちろん、選手には周囲の感謝と共に絶対に勝とうという負けず嫌いの気持ちが必要です。

ボッチャは最も手頃なインクルーシブスポーツですので、老若男女、障害の有無に関係なく、全国各地で様々な大会やイベントが行われています。健常者同士でもできますし、スペースも狭くて済みます。

企業間では対抗する大会もあります。色々なローカルルールでそれぞれが楽しめるのが、ボッチャの特長であり最も素晴らしいところでもあると思います。

独自のパラリンピックスポーツである“ボッチャ”、これからも私は皆さんと共に頑張りたいと思います。もし皆様にスポンサーになって頂ければ、道具も増えていくので有り難いなあと思いつつ、今日はこの会場に参りました。

パリパラリンピック、素晴らしいですね。シャンゼリゼ大通りで健常者と障害者が一緒に行進するようです。そんなニュースを聞いて大変嬉しくなりました。どうかこれからも、ますます共生社会を充実させ、実現させていく為にも、こういったパラスポーツからも色々な視点で皆様のご協力を賜ればと存じます。本日はご清聴ありがとうございました。

CONTENTS

- 1 競技の概要 3
- 2 クラス分け 4
- 3 使用するコートやルール 5
- 4 試合の流れ 7
- 5 選手とともに戦うアシスタント 10
- 6 さまざまな用具の工夫 11
- 7 ボッチャの奥深い戦略! 13
- 8 もっとボッチャを知りたい! 14





競技の概要

ポッチャは重度の脳性まひ者や同程度の重度障がい者四肢にある人のためにヨーロッパで考案されたスポーツです。近年では障がいの有無に関わらず、老若男女、誰でも楽しむことができるスポーツとして注目されています。

トップレベルのアスリートともなる、レクリエーションとは一線を画する競技力で、観る者を驚かします。両手両足を揃えて、それを支える脚の力を速く正確な投球は、たゆまぬ努力の果てにのみ身につけることができます。

障がいが重いからスポーツは楽しめないわけではなく、障がいが重くても楽しめるスポーツを開発すればいいのです。そのルートの中で競技力を高め、アスリートとして成長していくことは可能なのです。

ポッチャの魅力は誰しもがスポーツを楽しむことができるというパラスポーツの理念を体現しているところにあります。



パラリンピックなどの国際大会では、以下の障がいの種類と程度によって分けられた4クラス内でそれぞれ順位を競います。

BC1

種目
男女別個人戦
男女混合チーム戦

・悪い操作不可で四肢・体幹に重度のまひがある選手
・下手で悪い操作可能で足踏りで競技する選手

BC2

種目
男女別個人戦
男女混合チーム戦

・上肢で悪い操作がある程度可能な選手

BC3

種目
男女別個人戦
男女混合チーム戦

・最重度の選手が該当するクラス
・自力による投球ができないため、ランブオベーターによるサポートにてランブを使用し競技を行う

BC4

種目
男女別個人戦
男女混合チーム戦

・四肢麻痺や脳ジストロフィーなど、BC1、BC2と同等の重度四肢機能障がいのある選手

※ペア戦はBC3クラスとBC4クラスの各クラス2名ずつで、チーム戦はBC1クラスとBC2クラスにおける3名（そのうち1名以上がBC1クラス）で行われます

クラス	別称	投球	アシスタント
BC1	脳幹性麻痺	可（足踏み可）	○
BC2	脳幹性麻痺	可	×
BC3	脳幹性麻痺・脊髄損傷性麻痺	不可で四肢具を使用	○（ランブオベーター）
BC4	非脳幹性麻痺	可	△（足踏りの選手のみ）

公益財団法人
日本パラスポーツ協会

〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸町2-13-6
EDGE 水天宮ビル3階

TEL: 03-5699-7707
FAX: 03-5641-1213
HP: <https://www.pasports.or.jp/>
FB: <https://www.facebook.com/jpasports>

創設日: 2022年6月

●パラスポーツの情報や動画は日本パラスポーツ協会HPへ

●最新情報を随時更新中!日本パラスポーツ協会FBへ

「ジャカランダ」の植樹について

宮崎ロータリークラブ 社会奉仕委員長 山田 剛 会員

宮崎ロータリークラブでは、「ロータリー5大奉仕」の一環である「社会奉仕」事業として毎年二つの事業を行っています。

一つは、宮崎市内の各ロータリークラブと共同で行う「海岸清掃奉仕」です。我々は主に青島周辺の海岸を担当しているのですが、砂浜に漂着したプラスチックごみや不燃ごみの回収を行い、地球環境改善のお手伝いとさせていただきます。

そしてもう一つが「宮崎、緑のまちづくり事業」と銘打った「植樹奉仕事業」です。かつては宮崎森林管理署にお願いし、内海地区の国有林に毎年100本単位の広葉樹の苗を植樹して「ロータリーの森」と名付けていたのですが、やがて空きスペースが無くなったため市街地への植樹に変更することとなりました。

ただ、市街地には様々な規制があり、場所も制限されるためあまり大規模な植樹はできません。そこで、公園や病院などの公共性がある、かつ植樹を受け入れていただける施設に5本単位の小規模な植樹を継続していくこととしました。

植える木の種類は、昨年「ジャカランダ」としています。ジャカランダは熱帯原産であり日本では育たないとされていたのですが、お隣の日南市には約1000本のジャカランダが植えられた「ジャカランダの森」があります。

これだけの大規模なジャカランダの群生林が見られるのは、日本国内では唯一日南市だけのことです。つまり、ジャカランダは温暖な宮崎を象徴する樹であり、ワシントンアに次いで宮崎を代表する樹になるのではないかと考えました。

そこで、宮崎市内の各方面にジャカランダを植樹し、ジャカランダがあるのは当たり前という宮崎になればと願い、今回もジャカランダを選ばせてもらいました。

ジャカランダの開花時期は5月下旬から6月中旬の梅雨時期です。宮崎市内の各所にジャカランダが咲き誇り、「宮崎の梅雨は明るいね」と言われるようになれば幸いです。

東京OB会が開催されました

開催日: 3/19火曜日 開催場所: 東天紅国際フォーラム店

東京組参加者17名(順不同、敬称略)

高林彦彦(キリン)、高橋研造(日銀)、宮崎達三(NTT)、松井毅(明治安田生命)、荻野泰孝(東京海上)、松尾隆(日銀)、山下健一(キリン)、田中直樹(野村證券)、山口弘明(朝日生命)、宮原孝行(東京海上)、海老原政徳(第一勧銀)、大谷光夫(以下、みずほ)小橋隆夫、小林徹也、高橋優、大庭雅裕、大石秀一



植樹奉仕事業の様子

日時: 2024年3月24日(日) 午前11時~11時30分 場所: 宮崎市郡医師会病院 「東側駐車場三角緑地区画」



Rotary
第2730地区

宮崎ロータリークラブ

- 本年度(2023~2024)宮崎ロータリークラブの目標**
- ①国際ロータリー第2730地区 地区大会をホストクラブとして開催
 - ②池ノ上克ガバナーの活動支援
 - ③青島太平洋マラソン3キロの部 復活開催
 - ④会員数100名以上の堅持と女性会員の増強
 - ⑤例会出席率90%以上の確保
 - ⑥ロータリー財団寄付一人あたり100ドル以上
 - ⑦米山奨学会寄付一人あたり10,000円以上

<会長> 岡本 俊則
<副会長> 藺田 潤子
<幹事> 藺田 有美
<会報委員会> 福松 修一郎

■例会日/毎週火曜日(12:30~13:30)
■例会場/宮崎観光ホテル(☎27-1212)



■事務局 宮崎市宮田町13番8号(田崎ビル) TEL: 24-4872 FAX: 22-0288
URL: <https://miyazaki-rc2730.jp> E-mail: m-rotary@miyazaki-rc2730.jp